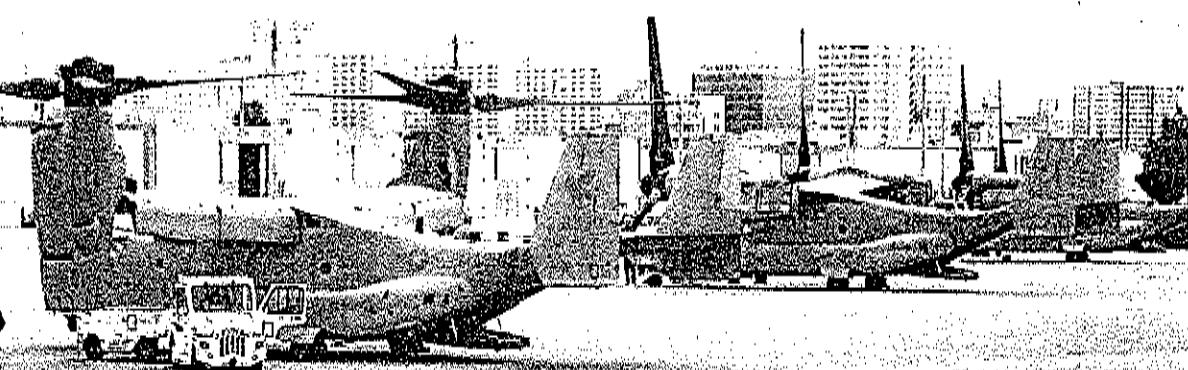


# 那覇軍港に米オスプレイ

## 「飛行中止」県が防衛局要請

米海兵隊の垂直離着陸機 MV-22オスプレイ3機が那覇市に位置する米軍那覇軍港に陸揚げされ、認されました。



米軍那覇軍港に陸揚げされたオスプレイ3機＝7日、那覇市

に船舶から陸揚げされたといいます。目的など詳細については米側に確認中のことです。

7日朝から米兵らがオスプレイの機体の点検やエンジン調整などを実施しました。

オスプレイは今年2月に那覇軍港に飛来し訓練を実施。

6月には普天間基地所属の3機が那覇軍港に飛来していました。これに対し県は、「県民に新たな基地負担を強いるもので断じて容認できない」とし、オスプレイなどの航空機の離着陸や訓練を行わないよう求めました。

県は7日、那覇軍港での航空機の運用が「周辺住民大きな不安を与える」とし、沖縄県に入った連絡によるをはじめとする沖縄県民に、「オスプレイ3機は6日で、沖縄防衛局に対し、陸

揚げされたオスプレイが那覇軍港から飛行しないよう米軍に働きかけることなどを要請しました。

那覇軍港をめぐっては、日米両政府による返還合意に基づき、同県浦添市沖へ議会では、代替施設が那覇の移設＝新軍港建設＝計画があります。国と県、那覇、浦添両市などによる協議会では、代替施設が那覇軍港の現有機能の確保を目的とすると確認されています。

ただ、那覇軍港で行われる運用や訓練は代替施設でも想定され得ることから、代替施設でオスプレイの飛来や訓練が行われる可能性もあります。県は、移設に伴い、オスプレイなどの航空機の離着陸や訓練を一切行わないことを求めています。

県は7日、那覇軍港での航空機の運用が「周辺住民子力潜水艦の運用などで米軍基地機能が強化される」とはあってはならないこと